

「10月1日は東京湾の日」川柳コンテスト 入賞句の選評

選評 審査委員長 稲田 眸子(いなだ・ぼうし)

「東京湾の日」を飾るにふさわしい力作揃いであった。「東京湾の日」大賞、秀作、佳作について選評を添えさせていただいた。選評者は、審査委員長の稲田眸子氏である。

選句にあたっては「ユーモア感覚が表現されているか」「日常の喜怒哀楽が表現されているか」「社会風刺が表現されているか」「東京湾のテーマが表現されているか」「選者の心に響く作品か」をポイントとした。

記念品贈呈者:「東京湾の日・大賞」川柳1名)、秀作3作 佳作6作
合計10作品

東京湾の日・大賞

いつの間にきれいになった妻と湾

綾部 保知 氏 茨城県

〈評〉ある調査によれば、女性に喜ばれる褒めの言葉のベスト3は、「一緒にいると楽しいな」「笑顔見たら今日もがんばれそう」「最近一段と綺麗になったね」だそうである。この句は我妻を横目で見ながら、「最近、きれいになったなあ」と心の中で呟いているが、その思いを言葉に出してほしい。それが夫婦円満の秘訣。そして、この句の「湾」は東京湾。かつてはヘドロの海と言われていたが、東京湾を愛する人達によって、きれいに生まれ変わったのである。

この句のもう一つのポイントは、やや惚けた表現の「いつの間」。他力本願ではない、関係者の並々ならぬ努力の賜なのである。このことを忘れてはならない。奥様の場合も涙ぐましい努力があったはず。このことを忘れてはならないのである。

ユーモア、喜怒哀楽、社会風刺、そして東京湾のキーワードがこの句の中に見事にこめられた一句であり、迷わず大賞に推挙した。「東京湾の日」の川柳コンテストの大賞を飾るふさわしい作品。

◎秀作 3句

江戸前でたかいたかいを孫ねだる

桑原 陸 氏 大阪府

〈評〉江戸前は文字通り「江戸の前方」のこと。「江戸の前面にある海」を指したことから、江戸の近海で獲れる新鮮な魚介類を「江戸前」と称するようになった。

孫を連れ、颯爽と鬚の鮓屋に入った作者。お品書きには「江戸前〇〇千円から」と書かれている。孫の前では見得を切りたいもの。「なんでもたのんでいいよ。じいちゃんにまかせない」と言ったところまではいいが、孫が指さしたのは「松」ランクのものばかり…。

赤ちゃんをあやす際の動作の「たかいたかい」と、江戸前鮓の値段の「高い」を小気味よくひっかけたところ、そして、お孫さんの甘えん坊さんぶりを想像させてくれる「ねだる」と表現したところにも惹かれた。じわりと喜怒哀楽の滲み出てくる句である。

恋愛の悩みもアジもさばく母

石畝 秀高 氏 滋賀県

〈評〉「鱻」という文字を見ると「おいし過ぎて参る」と読めるほど、刺身にしても、フライにしても美味しい魚である。初夏から夏にかけての時期は身がしまり、脂ののったおいしさが楽しめる。東京湾で釣った鱻は背中が金色に太ったものが多く、美味しさも上々なので、釣ってうれしい魚と言われている。

この句、料理上手、アドバイス上手のお母さんを「鱻」を使って表現。恋の悩みをさばくのも、鱻をさばくのも上手な母の小粋よさを「悩みも」「アジも」と畳語で表現した。ユーモアの優れた句である。

江戸前の通に見せかけ値に頭痛

青木 知恵 氏 東京都

〈評〉「通」とは、ある事柄に精通していることを指す。例えば、「魚介の種類や季節によって使い分ける。握りは、伝統的な江戸前をベースに、ねかせた魚介を鮓ダネに使う熟成鮓。そして何より大事にするのは、鮓ダネ・酢飯・煮切り醤油とのバランス」といった具合。江戸っ子の美的生活意識的な響きを感じられる言葉である。

この句は、「鮓通」風に粋がってみたが、お品書きの最上段の「江戸前〇〇千円から」と書かれた値段にびくびくしている作者の心情を詠んだ。ユーモア感覚が表現された句。

◎佳作 6句

東京湾オンリー湾でナンバー湾

伊藤 雅紀 氏 静岡県

〈評〉人にはそれぞれ個性があり、それは世界で唯一無二のもの。しかし、その個性を活かすために正面から向き合い、信念を貫き通すことのできる人はどのくらいいるであろうか。他者からの同調圧力や意見に流されず、常に自分の意見を持ち続け、自分の頭で考えることが出来る人はどのくらいいるであろうか。唯一無二のものがオンリーワンであるが、誰からも真似をされることなく自分だけの領域に達していることを常に求められるのであり、並々ならぬ努力が必要である。

この句、「東京湾」「オンリー湾」「ナンバー湾」と「湾」を畳みかけるように表現することによって、読者の心を刺激し、東京湾の目指す方向を指し示してくれているようだ。

屋形船三年振りの笑タイム

早雲 まり子 氏 茨城県

〈評〉MLB公式サイトが球界のベストニックネーム50を選出し、大谷翔平選手の活躍を表現した「ShowTime(翔タイム)」が8位にランクインしたとのニュースを見た。英語で「見せ場」を意味する「ShowTime」と大谷選手の名前を掛け合わせたこのニックネームについて、MLB公式サイトは「彼はホームランを飛ばすことも、打者を三振に仕留めることもできる。ベーブ・ルース以来、そんな選手はいなかった」とコメントしており、うれしくなった。コロナ禍によって屋形船は休業していたが、令和5年5月8日から「5類感染症」になり、操業再開。この句は、カラオケのできる屋形船で行われた賑やかな宴を「笑タイム」と表現した。「ShowTime(翔タイム)」も屋形船の「笑タイム」ともにユーモアに溢れている。

初デート江戸前寿司で目が泳ぐ

小松 真人 氏 大阪府

〈評〉作者は、初デートの場所として東京湾散策を選び、仕上げに江戸前寿司を食したのであろう。「目が泳ぐ」とは、瞳が左右に揺れ動く状態を言い、緊張や隠しごと、動揺などが原因で起こるらしい。

寿司が食べたいときは回転寿司で食すのであるが、今日は初デート。見得を張り、メディアで紹介されている寿司屋のカウンターへ。回る寿司は1皿100円～300円くらいであるが、江戸前寿司は時価。初デートの緊張感と時価のお品書きに落ち着かぬ作者の心情が汲み取れる句。

また釣れて魚図鑑とにらめっこ

梶 政幸 氏 千葉県

〈評〉東京湾で釣りをすると、たいていの人には「こんな都心なのに魚釣れるの？」と不審げに聞いてくる。実は、かつての東京湾では、根付き魚から回遊魚まで様々な魚を釣り上げることができたのである。例えば、唐揚げにすると美味しいカサゴ、塩焼きにすると美味しいサバ、刺し身が美味しいシマアジ、刺し身やムニエルにお勧めのヒラメなど…。釣り好きの作者は、東京湾の釣りの穴場を知っており、週末になるとそこに出掛けているのであろう。そこでは今まで出遭ったことのない魚を釣り上げることもある。徐に、写真付きポケットサイズの魚図鑑をとり出し確認、その仕草を活写した。「にらめっこ」の言葉によって臨場感の溢れる句となった。

「あげとくれ」花火てんぷら屋形船

新家 益一 氏 愛媛県

〈評〉屋形船料理のメインといえば江戸前天ぷら。船内で揚げたてを食することができる。そのネタの新鮮さ。屋形船では、旬の素材を新鮮なうちにサッと揚げて、熱々が出てくる。また、油や天ぷら粉にもこだわり、100%ごま油や独自ブレンドの油を使って揚げている船もあると言う。このこだわりが「サクッ」「ふわっ」「ジュワーツ」の美味しさを引き出すのである。屋形船のもう一つの楽しみは、花火を船上から見るができること。屋形船で旬の料理を食べつつ、両国の花火を楽しんでいたという記録もある。この句の「あげとくれ」は、江戸前天ぷらを指し、そして、打揚げ花火を指している。何と粋な風情であろうか。

江戸前は活きと活気の二刀流

岸 保宏 氏 埼玉県

〈評〉「二刀流」と言えば、ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手。ピッチャーとしてもバッターとしても目を見張るような成績を残してくれ、我々に夢と希望を与えてくれた大谷翔平選手。自慢の江戸前鮎もまた、「活き」と「活気」の二刀流だと自負している句。読者はこのユーモア感覚に膝を打つのである。

心配なニュースが舞い込んできた。大谷選手が右肘の靭帯を損傷し、メスを入れたとの記事である。ファンの一人として心配していたが、「早朝に手術を受け無事成功しました。不本意ながらシーズン途中でチームを離れることになりましたが残り試合のチームの勝利を祈りつつ、自分自身一日でも早くグラウンドに戻れるように頑張ります」と綴った彼のメッセージに安堵した。よかった、よかった。

◎キッズ大賞1名 該当無し